

【Ⅲ】 基準ごとの自己評価**基準 1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的****1-1. 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されていること。****(1) 事実の説明（現状）****1-1-① 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されているか。**

建学の精神は、「本学園創立の根本理念たる『睦』の精神を育む仏教主義に基づく大学として、教育基本法及び学校教育法に則り、専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、併せて有為の人材を養成することを目的とする」と示している。

この建学の精神及び大学の基本理念を学内外に提示し周知徹底するため、以下のようなメディアや様式等を活用している。

まず、広報メディアとしては、「兵庫大学ホームページ」によって、七つの項目（1.建学の精神 2.本学の目的 3.全人教育と和の精神 4.教育と研究に対する本学の基本的認識 5.教育目標とその達成方策 6.宗教教育 7.社会貢献）にわたり建学の精神から教育理念や方針について詳述している。また、学園広報誌『あおぞら』、大学広報誌『WING』の定期的刊行や、「大学案内」「学生便覧」等においても、大学の理念や教育目的が示されている。

(2) 1-1の自己評価

建学の精神・大学の基本理念は学内外に、前述の諸種媒体において示している。

また、「建学の精神」に基づく教育の尊重は「就業規則」にも明記されており、この方向性は本学に関わる者の多くが共有できるよう、機会あるごとに説明が実行されている。特に、教職員に関しては、就任前に「就労等に関する説明会」を開催し、「建学の精神や大学の基本理念」に基づく大学であることが提示されている。

以上のことから明らかなように、本学が「建学の精神」に立脚した大学であることは明確であるものの、本学が仏教主義に立脚した学校であることや浄土真宗本願寺派関係学校であることが学内外に広く周知されているかという点、未だ満足できるレベルにあるとは言えない面がある。

(3) 1-1の改善・向上策（将来計画）

入学以前の学生・保護者、あるいは学外に対して「建学の精神と大学の基本理念」の提示は必ずしも充分ではない。例えば、併設高校である須磨ノ浦女子高校出身者などは、しっかりと理解しているがそれ以外からの入学者においては、ややもすれば仏教系大学であることさえ知らずに入学してくる学生も見受けられる。ただ、そういう学生も仏教的要素あふれる入学式に出席し、オリエンテーションで「建学の精神及び大学の基本理念」のレクチャーを受け、必修科目である「宗教と人生」を受講し、さまざまな仏教系学校行事などに触れているうちに自然と本学の姿勢を理解していく。

さらなる改善・向上策として、以下のような方策を検討している。

まず、すぐにでも実行可能な具体的な方策としては、もっと学内外に「建学の精神」を

書き示し掲示する必要があるだろう。現在では、正門を入り向かって左手に「以和為貴（和を以て貴しと為す）」という石碑が建てられ、明示されてはいるものの（写真3）、思惟館（p.10 参照）などにも「建学の精神」を掲示する必要がある。学内外において、折にふれ目にするような形で「建学の精神」を掲示することに取り組むべきであるとする。また、オープンキャンパスなどでさらに「建学の精神と大学の基本理念」を説明する機会を設ける、あるいは入学案内情報をさらに充実させて「建学の精神と基本理念」をわかりやすく提示・解説する、といった取り組みに着手していく。

また、学園法人本部に平成20（2008）年から設置した「宗教室」が今後どのような形で機能するのか。まだまだ未知数ではあるが、本学園として足並みを揃え、「建学の精神」に基づいた新しい取り組みに着手できるよう下地作りを進めている。

（写真3）



1-2. 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

(1) 事実の説明（現状）

1-2-① 建学の精神・大学の基本理念を踏まえた、大学の使命・目的が明確に定められているか。

本学は、睦学園創設以来、聖徳太子の掲げた「和」の精神を育む仏教主義に基づく教育を実践する大学である。本学園は仏教の「日曜学校」を出発点とした経緯をもつため開学以来「幼児教育・保育」を柱としてきた。しかし、聖徳太子が目指した理想における最大の特徴は、現実の世俗において「和」を貴しとする社会の実現であり仏教主義によって育まれた人格によって現実社会を生きる方向性であった。その姿勢をもって経済・情報・健康・福祉などへの取り組みを実践したのである。それゆえ本学でもその精神に基づいて、人間におけるさまざまな営みに関わる教育を模索してきた。

まずは、本学園の「和」の精神をしっかりと身につけた上で、経済、経営、情報、地域社会のデザインといった実学に取り組み、地域の中で貢献できる人材を育成することから始めるべきだという視点から、「経済情報学部」を設置。またさらなる高い専門教育を目指し、経済と情報の「今」と「これから」を捉え、「経済・金融・商業系」「経営・会計系」「情報・数理系」の3つの系統から課題や事例を追究し、高度な専門職業人の育成を可能にするため、大学院「経済情報研究科」を設けている。

さらに、同じく本学の建学の精神を身につけた上で実学を学び、「より良い社会の実現

とは何か。人間の幸せとは何か」というテーマに取り組む人材を育むため、「健康科学部」及び「生涯福祉学部」を相次いで設置した。健康、福祉は、すべて社会や人間を長く広いスパンで考え、取り組まねばならない領域である。しかも専門教育が現実生活の中に直接反映される分野であり、これらの学部・学科は本学がもつ「高い精神性を基盤として実学を学ぶ」という方向性から選択されてきた結果である。

つまり、社会や地域のさまざまな局面、そしてライフサイクルのさまざまな局面において、「和」の精神を実現するための教育を志向しているのである。

以上、本学の考える「使命」や「目的の方向性」は、ほぼ一貫している。このように本学の使命や目的、建学の精神は明確に定められている。

1-2-2② 大学の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。

本学の使命及び目的は、「兵庫大学ホームページ」で詳述され、公開されている。

さらに、入学式の際に全入学生に『仏教聖典』（仏教伝道教会刊）と念珠を配布している。そして『ぷんだりーか』という「学長室宗教担当」が作成した冊子も全学生に配布している。『ぷんだりーか』には、本学来歴から「建学の精神」や「大学の基本理念」、そして「定例礼拝」で勤められる偈頌や仏教讃歌に至るまでが、懇切に著されている。

また、体育館の演壇や11号館や5号館、15号館（思惟館）には世界の仏教共通のシンボルである「法輪」が設置されている。

中でも体育館に設置された「法輪」の両脇には、推古天皇と聖徳太子をモチーフにして「和」と題された壁画が描かれていることを付言したい。また5号館の法輪設置場所は研修・合宿施設として活用できるが、「仏間」様式になっている。

教職員に関しては、就任前に「就労等に関する説明会」や「辞令交付式」が開催され、「建学の精神や大学の基本理念」及び使命と目的が通達される。さらには「FD（Faculty Development）」委員会の活動などにおいても、本学の方向性を周知するための努力を続けている。

そして、全教職員や学生対象のセミナー（宗教セミナーや人権セミナーなど）が、年に何度も開催されており、その都度、本学の目指す方向性が語られている。さらには、「人権教育推進委員会」を設置し、人権問題に取り組んでいる。「人権教育推進委員会」では、委員が人権問題の研修への参加及び、浄土真宗本願寺派関係学校の同和教育推進委員として参画している。また、本学内教職員対象の「人権セミナー」が開催されるなどの取り組みをしている。

次に、本学においては「宗教と人生」がカリキュラムの中に必修として設けられている。この講義は1年次I期の必修科目となっている。「宗教と人生」では、「宗教とは何か」から始まり、広く「世界の様々な宗教」を学び、さらに「仏教」が講義される。さまざまな宗教の相違や共通点を比較検討し、宗教について深く考察することによってより良い人生を目指すことに重点を置いている。それは、本学の「建学の精神と基本理念」を深く学びとるためであり、本学学生としての誇りと自覚を涵養するためである。

また、選択科目として「宗教と文化Ⅰ（仏教）」「宗教と文化Ⅱ（キリスト教）」「宗教と文化Ⅲ（イスラム教）」が全学年対象に設けられている。このことも、徳育及び知・情・意のバランスがとれた教育を目指す本学の目的の表れである。

本学では、入学式や卒業式等の催事を仏教の音楽法要様式で行うことによって、仏教主義に基づく大学であることを明確に示し、催事では、仏教讃歌が合唱され、献灯・献華・献香が行われ、「三帰依文」を合しようしている。

5月には釈尊の生誕を讃える「灌仏会（通称：花祭り法要）」が勤修され、音楽法要や法話が行われる。そして教職員や学生が分け隔てなく灌仏を実践し、甘茶がふるまわれる。

6月10日は、「進睦610会」と称した全学園を挙げた教職員の交流会が行われ、ここでも、仏教式典が勤められている。

9月には、「学園追悼会」が勤修され、学園関係物故者を追悼する法要が行われ、説法を聴聞する。

12月には、学園併設校による「成道会フォーラム」が開かれる。12月8日の明け方、釈尊が悟りを開かれた（成道）を機縁として、学園全体の「建学の精神」「基本理念」を検討し、再確認されるフォーラムである。学園における宗教教育を中心とした方向性について議論が交わされる貴重な場となっている。

本学キャンパス内には「思惟館」という施設が設置されており、「学長室宗教担当（兼任7名）」が中心となって礼拝や看話を勤めている。「思惟館」では、毎週水曜日の昼休みに「定例礼拝」が勤修され、教職員や学生に宗教的時空間を提供している。誰もが参加可能であり、参加を強制されることもない。ここでは勉学やサークル活動等とは別の時空間を提供している。特に「定例礼拝」の看話は、本学の教職員が誰でも自主的に担当できるようになっており、内容も宗教に限定されず、自らの人生や価値観や体験などを自由に語ってもらっている。これは他の宗教系大学が行う「定例礼拝」とはまたひと味違った本学の大きな特徴である。ちなみに「思惟館」という名称の由来は、親鸞聖人の主著である『顕浄土真実教行証文類（通称：教行信証）』の文言を典拠にしている。

また、本学では、教職員や学生を対象として、年に数度の「宗教セミナー」を開催しており、仏教講演や宗教心の問題や人権問題など幅広いテーマに取り組んでいる。さらには、年に一度、「宗教ツアー」を行い、西本願寺を始めとしてさまざまな寺社や宗教施設を訪れ、文化的感性を磨いている。このツアーによって、教職員や学生の親睦が深められる場合も多い。

他にも、本学では「浄土真宗本願寺派関係学校の研修会」や「仏教系大学会議（66の大学・短期大学が加盟）の研修会」に参加している。本学では、教職員がさまざまな「建学の精神と基本理念」に関わる研修会や交流会に積極的な参加を実践している。これらも、学内における「建学の精神と大学の基本理念」の自覚を促すことへとつながっている。

ゆえに、大学の使命・目的を学生や教職員に周知する取り組みは適切に行われている。

1-2-③ 大学の使命・目的が学外に公表されているか。

既に述べたように、本学の使命と目的は「兵庫大学ホームページ」「大学案内」「学生便覧」等によって公表されている。

また、オープンキャンパスの開催、支局長制度（県外に支局長を配置して広報活動を行う制度）の導入、高校訪問、出張講義など、様々な方策によって、本学の使命・目的は学外に公表されている。

(2) 1-2の自己評価

本学は、教職員と学生との距離が近く、大規模大学にはない親密な雰囲気がある。同様に、使命と目的についても、学内に関してはさまざまな機会や媒体を通じて伝達されている。

その使命と目的である「知・情・意のバランスがとれた人格発達の支援」という「全人教育（宗教教育が不可欠）」「社会に貢献できる人材の養育」という面に関しては、望ましい方向へ進んでいると思われる。少人数教育による学内の家庭的でお互いに思いやりある雰囲気は本学の特色である。

本学は、明確な「建学の精神と基本理念」を有した大学である。そのため、それに基づいて成立する「使命」「目的」も軸がぶれにくい確かなものとなっている。また、そのことを学内の教職員が共有している傾向も強いと思われる。これは大規模大学とは相違する長所として挙げられる。

学生においても、初年次よりも、学年が進んでいくにつれて、本学の方向性を理解し、その良さを認識する機会が多いように見受けられる。これは、機会あるごとに、本学の「使命」や「目的」を繰り返し実感している結果であると思われる。

(3) 1-2の改善・向上方策（将来計画）

学内においては、前項のような手法によって周知徹底を目指しているが、学外に関しては（学内に比較して）多様な伝達方法があるわけではない。このことはさらなる取り組みが必要な点であると考えている。

例えば、本学は「兵鸞会」（兵庫大学卒業生の会）を始めとした卒業生のネットワークがある。今後は、この卒業生の支援や会報なども活用して、学外へのアピールを強化していきたい。

また、本学は「地域の生涯学習機会の拠点」たることを重視するところに特性がある。ゆえに、地域に本学の使命と目的を理解してもらうことは、本学にとって今後ぜひとも実践していくべき課題である。

そのための改善・向上策として、大学から地域社会へと「一方向的な流れ」ではなく、「双方向的な交流」に力を注ぐことに着手している。本学と地域社会のリソースを互いに活用することを目指し、さまざまな取り組みが試されている。例えば、本学のホームページには、「地域のみなさまへ」というコンテンツを設けている。ホームページに関してはこれから充実していかなければならない余地はあるものの、これなどは本学の姿勢を端的に表した事例だと言える。また、大学外での「公開講座」や「地域との懇談会」なども開催、さらには地域の史的文化的研究も推進しており、地域との積極的な連携がはかられている。「地域密着型のリーダー育成」を促進するため、「インターンシップ」の推進も実施されている。

すぐに結果に結びつくわけではないだろうが、すでに多くの試みが実践されていることは確かである。また、今後ともさらにさまざまな試みを続けていく方針である。その意味において、本学は「改善・向上すべき方向性」を明瞭に自覚していると言えるのではないかと考えている。

【基準 1 の自己評価】

本学の「建学の精神」は、睦学園創設以来一貫したものであり、今後も揺らぐことのない中軸である。「和」の精神を育てていくことこそ本学の存在意義である。そして浄土真宗本願寺派関係学校であるという自覚、これらは学内外において「広報メディア」「セレモニー・式典・行事」「施設の様式」「学長室宗教担当」「思惟館」「カリキュラム」など、さまざまな場面において提示されている。

このように「建学の精神と基本理念」、さらには「使命」「目的」が明確であるのは、「宗教・宗派を基盤とする大学」の特性である。

この特長を積極的に生かす道は、常に「建学の精神や基本理念」に立ち返ること、さらには「使命」と「目的」を繰り返し確認するところにあると考えている。

本学は自らの立ち位置と方向性を明確にもっており、その姿勢を随所に確認することはできる。ただ、現時点ではそれを学外に十二分に周知徹底できている状態とは言えず、今後の課題である。

【基準 1 の改善・向上方策（将来計画）】

今後も本学では、「建学の精神と基本理念」に基づき、より良き人間形成と人材育成を使命として教育を実践していく。

本学の「使命」と「目的」を教職員・学生が共有するためには、適正規模の大学ではないかと考えている。多くの学生が、学生生活を送っている中で（入学時に比べて）本学の特性に関する理解を深めていっているように見受けられる。まさに「出口重視」の大学だと言えよう。

仏教精神に立脚する本学では、すべての縁を大切にしたいと考えている。学生生活をおう歌する学生も、なかなか適応できない学生も、共に兵大生としての誇りをもって社会へと歩みだしてもらえよう、教職員と学生との距離を縮めるよう努めている。これらの営みが、実を結ぶよう、うまずたゆまず地道な取り組みを続ける方針である。

課題としては、「学外（特に地元地域）に対して『建学の精神や基本理念』を理解してもらう」ことが挙げられる。本学のホームページを中心として、大学案内や活字メディアにおいては明記されているものの、そのような媒体に目を通さない人々にとっては、本学の特徴を知ってもらう機会は少ない。本学の学部や学科による公開講座や地域参加は行われているが、その多くは実学中心の各専門分野に特化したものであり、「建学の精神及び基本理念」を知ってもらう機会は少ないと言わざるを得ない。今後は「宗教」や「仏教」、あるいは「人権問題」など、深い精神性や生きていく上での価値観をテーマとしたもの、また本学の「全人教育」をテーマとしたさらなる交流機会の提供に着手しなければならないのではないかと考えている。